

検査項目の概要 ①

検査項目につきましては、健診コースにより多少の違いがございますので、ご了承下さい。

検査項目	要約												
◆ 身体計測													
BMI(体格指数)	BMI(体格指数) = 体重(kg) / (身長m) ² BMIは肥満度を表す国際的な基準です。最も病気になりにくいBMIは22とされています。												
標準体重	標準体重(kg) = (身長m) ² × 22 BMIが22になる体重です。												
体脂肪率	体脂肪率は、生体の電気抵抗から求めた体脂肪量を体重に対する割合で測定します。												
腹囲	腹腔内の脂肪量をあらわす目安として、臍の部分で横断する周囲径を測定します。												
◆ 視力													
視力	適正な視力がないと眼が疲れる原因となります。												
◆ 眼圧													
眼圧	眼圧が高いと緑内障になるおそれがあります。												
◆ 聴力													
聴力	聞き取ることのできる最小の音の強さを測定します。聴力が低下するほど数字が大きくなります。												
◆ 肺機能													
予測肺活量	同性同年齢の肺活量の基準値です。												
努力性肺活量	最大に吸い込んでから最大に吐き出せる呼吸量です。												
%肺活量	予測肺活量に対する努力性肺活量の割合です。												
1秒量、1秒率	最初の1秒に吐き出した呼吸量が1秒量、努力性肺活量に対する1秒量の割合が1秒率です。												
%1秒量	同性同年齢の標準の1秒量に対する割合です。肺気腫や喘息などで肺機能は低下します。												
◆ 血圧													
血圧	血圧は気温・運動・精神状態などによって常に変動しています。繰り返し測定することが必要です。 高血圧の状態が長く続くと脳卒中、心臓病、腎臓病などを起こします。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基準範囲</th> <th>要注意</th> <th>要受診</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収縮期血圧</td> <td>129以下</td> <td>130~159</td> <td>160以上</td> </tr> <tr> <td>拡張期血圧</td> <td>84以下</td> <td>85~99</td> <td>100以上</td> </tr> </tbody> </table>		基準範囲	要注意	要受診	収縮期血圧	129以下	130~159	160以上	拡張期血圧	84以下	85~99	100以上
	基準範囲	要注意	要受診										
収縮期血圧	129以下	130~159	160以上										
拡張期血圧	84以下	85~99	100以上										
◆ 脂質													
総コレステロール	コレステロールは細胞膜、胆汁酸、ステロイドホルモンなどの材料となります。血中濃度は体内合成量と食事の影響を受け、肥満、糖尿病、甲状腺機能低下症で高値になります。												
LDLコレステロール	悪玉コレステロールとも言われ、増加すると動脈硬化を起し、脳梗塞や心筋梗塞の原因になります。												
HDLコレステロール	善玉コレステロールとも言われ、悪玉コレステロールを運びだす働きがあります。減少すると脳梗塞や心筋梗塞を起します。運動で上がり、喫煙で下がります。												
non-HDLコレステロール	善玉コレステロール以外のコレステロールで、増加すると動脈硬化を起こす一因となります。												
空腹時中性脂肪 随時中性脂肪	内臓脂肪や皮下脂肪の主たる成分で、血液中の脂質のひとつです。長期に高値が続くと動脈硬化や心臓病と関係すると言われていました。炭水化物やアルコールの摂りすぎで上がります。												
sd-LDLコレステロール	超悪玉コレステロールともいわれ、悪玉コレステロール(LDL)のなかでも特に動脈硬化を引き起こすとされています。												
◆ 肝機能													
AST(GOT)	肝炎およびアルコールや脂肪肝による肝機能障害の時に高値になります。												
ALT(GPT)	ASTは心筋や筋肉の障害の時に、ALPは骨疾患、副甲状腺機能亢進の時に高値になります。												
ALP													
γ-GTP	アルコール性の肝障害、胆汁のうっ滞、薬剤の副作用などで増加します。												
LD	肝疾患、心筋梗塞、筋肉の病気、血液疾患、悪性腫瘍、アレルギー疾患などで高値となります。												
総蛋白	総蛋白は主にアルブミン(A)とグロブリン(G)から成り立っています。栄養状態の良し悪しと関係があります。グロブリンは細菌に対する防御や免疫をつかさどる蛋白質です。												
A/G比	A/G比は肝臓に障害がある場合や腎臓病の時に低下します。高値は特別な病気以外心配ありません。												
総ビリルビン 直接ビリルビン	黄疸の時に増える茶色の色素で、肝臓実質の障害や胆道の閉塞、血液疾患の場合に増加します。ビリルビンは2種類(直接、間接)あり、肝臓・胆道疾患では直接、血液疾患では間接が高値になります。もともと体質的に高い人は心配ありません。												
コリンエステラーゼ	コリンエステラーゼは脂肪肝・甲状腺機能亢進症・糖尿病で高値に、重症肝障害・低栄養で低値になります。												
LAP	LAPは肝障害で高値になります。												

検査項目の概要 ②

検査項目	要約
◆ 電解質	
カルシウム	血液中と骨に含まれるカルシウム量は、副甲状腺機能やビタミンD・栄養状態によって変動します。カルシウムの変動は骨粗しょう症や腎石の原因となります。
無機リン	食事の影響で変動し、副甲状腺機能低下や慢性腎不全で高くなります。
ナトリウム	水分不足や塩分の摂りすぎで上昇し、水分の摂りすぎや嘔吐などで低下します。
カリウム	腎機能が低下すると上昇し、下痢・嘔吐・発汗で体外に喪失すると低下します。
クロール	ナトリウムに伴って変化します。
◆ 甲状腺	
TSH	甲状腺刺激ホルモンの略称。甲状腺機能に対応して血液中濃度が変動します。甲状腺機能を間接的に調べる検査です。
FT4	甲状腺ホルモンの略称。甲状腺の機能状態を直接的に調べる検査です。甲状腺の機能亢進症では汗かき、動悸などの症状が、機能低下症では物忘れ、無関心、足のむくみなどが出てきます。
◆ 血液一般	
白血球	体内に入ってきた異物、たとえば細菌などを取り除く働きがあり、細菌感染(扁桃腺炎、歯槽膿漏、虫垂炎など)の時に高値になります。白血病などでは著しく高値になります。
赤血球	赤血球は体の組織に酸素を運ぶ血球です。その濃度はヘモグロビンで示します。低値であれば貧血、高値であれば多血症になります。
ヘモグロビン	
ハマトクリット	MCVは赤血球1個あたりの容積、MCHは1個あたりのヘモグロビン含量、MCHCは1個あたりのヘモグロビン濃度をあらわします。MCVが低いと鉄不足、高いとビタミン類の不足が考えられます。
MCV	
MCH	
MCHC	
血小板	出血を止める役割を果たしており、著しく減少すると出血しやすくなります。
血液像	白血球を種類別に%で表示しています。好中球が多いと感染症、好酸球が多いとアレルギー疾患が疑われます。
◆ 貧血	
血清鉄	赤血球を作る材料の鉄の量を示します。
フェリチン	身体に貯蔵されている鉄(予備の鉄)を示します。低下していれば鉄分が不足しています。
◆ 尿検査	
蛋白	尿蛋白陽性(+)は腎臓の病気に見られ、過激な運動、強いストレス、熱性疾患、尿路(膀胱や尿道)の炎症の時に陽性(+)になります。
糖	尿に糖がでると糖尿病の疑いがあります。糖尿病の初期では尿糖陰性(-)のことがありますので、尿糖が陰性(-)でも糖尿病でないとは言いきれません。
pH	食事や睡眠で大きく変化します。
潜血	腎臓や尿路の結石・腫瘍・炎症などで出血がある場合に、陽性(+)となります。
ウロビリノーゲン	血中のビリルビンの上昇に伴い尿中に出てきます。
ビリルビン	ウロビリノーゲンは陰性(-)の時、胆道閉塞などの異常を疑います。
ケトン体	空腹時や重症の糖尿病の時に尿に出てきます。
亜硝酸塩	陽性の時は尿路感染症が疑われます。
比重	糖尿病や脱水の時、高比重(1.030以上)になります。
尿沈渣 赤血球 白血球 円柱類 細胞類 細菌類 その他	尿に出てくる血球や尿路系の細胞を調べます。腎炎や膀胱炎の時に異常が出ます。
◆ 便検査	
便潜血反応	大腸からの出血の有無を調べます。大腸にポリープ、がん、潰瘍や痔などの病気があると、便潜血反応が陽性(+)となるので、さらに詳しい検査が必要です。大腸がんのスクリーニングに有効とされています。
◆ 肝炎ウイルス	
HBS抗原	陽性(+)ではB型肝炎ウイルスの感染状態にあります。急性肝炎では2~3カ月で抗原は陰性化してHBS抗体が出現します。肝炎を発症しないキャリアでは感染が持続します。
HBS抗体	陽性(+)では過去にB型肝炎ウイルスに感染して現在は治癒しています。HBワクチン接種した場合も陽性(+)になる場合があります。
HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染している場合、または過去に感染した場合に陽性(+)になります。
HA抗体	陽性(+)ならA型肝炎ウイルスに対する免疫があり、心配ありません。

検査項目の概要 ③

検査項目	要約				
◆ 糖代謝					
空腹時血糖 随時血糖 HbA1c	糖尿病のための検査です。空腹時血糖値が110mg/dL以上になれば境界型糖尿病、126mg/dL以上になれば糖尿病と診断されます。HbA1cはヘモグロビンにブドウ糖が結合したもので、空腹時血糖値、食後血糖値が1カ月以上にわたって高い状態が続くと上昇します。HbA1cが6.5%以上になれば糖尿病とみなされます。				
◆ 膵機能					
膵型アミラーゼ	血清のアミラーゼには膵型と唾液腺型の両方が含まれています。				
血清アミラーゼ	膵型アミラーゼは膵臓の炎症や障害、マクロアミラーゼ血症などで高値になります。				
尿膵型アミラーゼ	慢性膵炎で高値、マクロアミラーゼ血症で低値になります。				
◆ 尿酸					
血清尿酸	尿酸値が高くなると痛風や腎臓障害、尿路結石の原因となります。				
◆ 腎機能					
尿素窒素	クレアチニン、尿素窒素は腎臓の機能が低下すると高くなります。尿素窒素は食事に含まれる蛋白質の量の影響を受けて変動します。				
クレアチニン					
eGFR	腎機能の指標で、60ml/min/1.73m ² 以下で腎機能低下となります。				
◆ 炎症反応					
リウマチ因子	関節痛があってこの因子が高ければ慢性関節リウマチが疑われます。				
CRP	生体反応の結果生じる急性反応蛋白のひとつで、のどや関節の痛み、発熱などの炎症反応があれば上昇します。				
hs-CRP					
◆ 胃がんリスク					
ピロリ抗体	ピロリ菌感染の有無を血液で調べます。ピロリ菌に感染すると胃・十二指腸潰瘍・萎縮性胃炎・胃がんになりやすいといわれています。				
ペプシノゲン	胃粘膜萎縮の程度を血液で調べます。胃炎や加齢に伴って胃粘膜の萎縮が進むほど胃がんになりやすいといわれています。				
ABC検診	ピロリ菌と萎縮性胃炎の有無により胃がん発生のリスクを分類します。ABC分類に適さない人(プロトンポンプ阻害剤服薬中、腎不全、胃切除後)				
ABC分類	A群	B群	C群	D群	E群(HP除菌群)
ピロリ菌(HP)抗体	—	+	+	—	—/+
ペプシノゲン(PG)値	—	—	+	+	—/+
胃がんの危険度	低			高	※2
胃の状態	胃粘膜萎縮はない	胃粘膜萎縮は軽度	胃粘膜萎縮が進行中	胃粘膜萎縮が高度	除菌によりPG値が改善しても、胃粘膜萎縮は改善しない
年間の胃がん発生頻度	ほぼゼロ※1	1000人に1人※1	500人に1人※1	80人に1人※3	※3
判定後の画像検査	不要※4	定期的に胃カメラ検査を受ける、具体的には医師と相談			
ピロリ菌除菌	不要	必要	必要	他のHP検査で陽性の場合は必要	除菌成功後なら不要

※1 GHN『Gastro Health Now』（第1号）

※3 除菌後胃がんの48%が除菌後3年以内に、34%が除菌後5年以降に発見（第26号）

※2 除菌成功により胃がん発生リスクが30%に低下（第26号）※4 自覚症状のある人は必要、過去に画像検査を受けていない人は医師と相談（第22号）

ピロリ菌の除菌については、かかりつけ医または専門医にご相談ください。

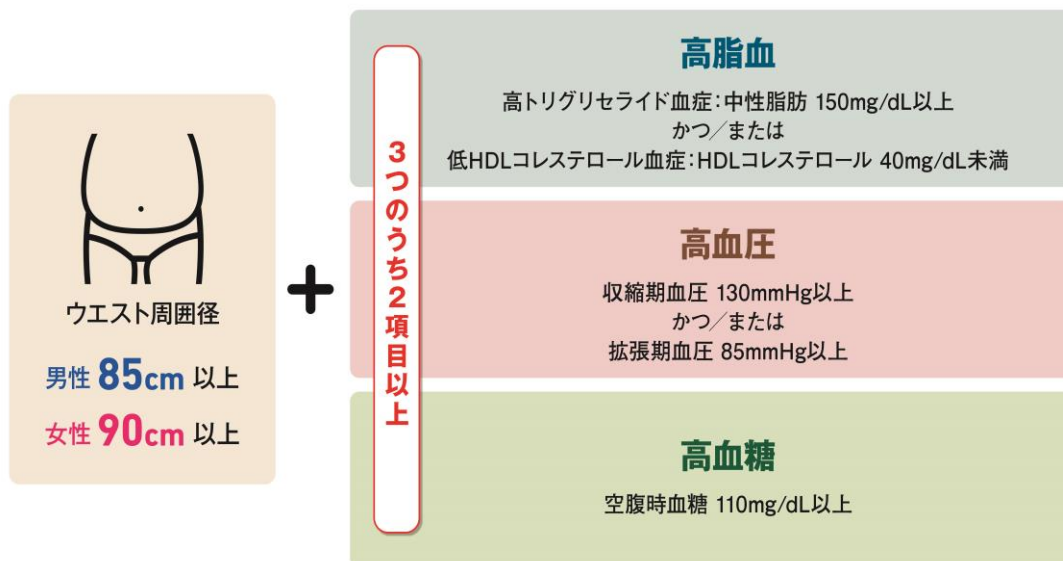
（認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構2014）

◆ 腫瘍マーカー	
CEA	大腸がん、胃がん、膵がん、胆道がんの腫瘍マーカー。喫煙、肝炎、慢性肺疾患で高値になることがあります。
AFP	肝細胞がんの腫瘍マーカー。妊娠により高値になることがあります。
CA19-9	膵がん、胆道がんの腫瘍マーカー。肝胆膵の良性の疾患、糖尿病でも高値に、若い女性も高値になることがあります。
CA125	卵巣がんの腫瘍マーカー。子宮内膜症・筋腫でも高値になることがあります。
PSA	前立腺がんの腫瘍マーカー。前立腺肥大でも高値になることがあります。
ProGRP	肺がんのうち小細胞がんの腫瘍マーカー。腎臓が悪いと高値になることがあります。
CYFRA(シ75)	肺がんのうち扁平上皮がんなどの腫瘍マーカー。タバコを長く吸っていると扁平上皮がんを発症しやすくなります。肝炎でも高値になることがあります。
PIVKA-II	肝細胞がんの腫瘍マーカー。
エラスターゼ1	膵臓がんの腫瘍マーカー。
Span-1	膵、胆道などの消化器がんの腫瘍マーカー。
抗p53抗体	食道がん、大腸がん、乳がんなどの腫瘍マーカー。体質によって高値になることがあります。

検査項目の概要 ④

検査項目	要約
◆ 画像検査	
心電図	心臓の活動の状態を検査し、不整脈、心筋疾患、心肥大などの心臓病の有無を調べます。
眼底	眼の奥にある網膜の血管の状態を撮影します。高血圧や動脈硬化の進み具合、糖尿病の合併症を知ることができます。
胸部X線	肺がん、肺結核、肺炎、胸膜炎などの診断に重要な検査です。心臓の大きさや形も調べます。
上部消化管X線	食道、胃、十二指腸の形、内面の微細な変化を調べます。主な病気として、食道がん、胃潰瘍、胃ポリープ、胃がん、十二指腸潰瘍などが見つかります。
腹部エコー	超音波を用いて上腹部内にある胆のう、肝臓、腎臓、脾臓、膵臓、腹部大動脈などを調べます。胆石、胆のうポリープ、脂肪肝、肝のう胞、腎石、腎のう胞、脾のう胞、動脈硬化などが見つかります。悪性腫瘍が見つかることもあります。胃の裏にある膵臓は描出不能となることもあります。※描出不能はエコー上みえていない状態
マンモグラフィ	X線を用いて乳房を撮影します。乳がんの診断に重要な検査です。
乳腺エコー	乳腺用の超音波診断装置を用いて、腫瘍の有無を調べる検査です。若年者の乳腺などには特に有効です。
胸部CT	X線を使い胸部の断層写真を撮影し、肺がんや肺結核、胸部大動脈瘤などを発見できます。
内臓脂肪CT	腹部のCTを1枚撮影し、内臓脂肪の面積を測ります。100cm ² 以上あればメタボリックシンドロームが疑われます。メタボの判定は血圧や中性脂肪もあわせて判定します。
◆ その他	
NT-ProBNP	心不全の兆候を発見します。高値の場合、心臓に負担がかかっていることを示します。
便虫卵	便の中に寄生虫の卵があるか顕微鏡で調べます。
マラリア原虫	血液の中にマラリア原虫がいるか調べます。
骨密度	X線を用いたDEXA法で前腕の骨密度を測定します。骨密度は加齢や生活習慣の影響を受けます。骨密度が減少すると骨粗しょう症のリスクが高くなります。
HPV	ヒトパピローマウイルス(HPV)は、子宮頸がんの主な原因です。高リスクのHPVに感染しているかを調べる検査です。
LOX-index	変性したLDL(超悪玉コレステロール)とそれに結合するLOX-1という蛋白を測定し、将来の脳梗塞や心筋梗塞のリスクが高くなっていないか判定します。
Viewアレルギー39	花粉、ダニ、カビなどの吸入系や、果物、卵、小麦、魚などの食事系の重要な39種のアレルギーを血液で判定します。
血圧脈波検査(CAVI/ABI)	両手・両足の血圧を測定し脈波を記録することにより、血管の硬さや狭窄、閉塞の程度を調べる検査です。

メタボリックシンドローム判定基準について



薬剤治療を受けている項目は診断該当項目とみなします。